

番号	120	令和3年豪雨災害及び令和元年豪雨災害実績浸水深		
所在地	大町町福母695-4 下瀧公民館			
災害別	令和3年(2021)8月水害及び令和元年(2019)8月水害			
目的別	その他	建立年	不明	
特記事項	武雄市内にも同様な表示あり。			



大町町の下瀧公民館の壁面に、令和元年(2019)8月26日から29日の佐賀豪雨災害における実績浸水深(赤線)と令和3年(2021)8月11日から19日の豪雨災害の実績浸水深(青線)が大町町によって設置されている。令和元年の洪水の際は車の屋根位までの水位だが、令和3年は、人の背丈よりも高く、建物1階の軒先まで水没するほどである。

令和元年の佐賀豪雨では、大町町で、全壊79棟、大規模半壊71棟、半壊4棟、床上浸水18棟、床下浸水131棟、計303棟の住宅等被害(佐賀県発表)が発生したほか、病院の孤立のほか、鉄工所から油が

流出しその回収に追われた。

その豪雨災害からようやく復旧し始めた令和3年8月、佐賀県下は再び豪雨災害に見舞われた。8月11日から続いた梅雨末期を思わせる長雨は、14日、嬉野市で24時間降水量555.5ミリを観測し、観測史上1位の記録を更新するなど記録的な大雨になった。大

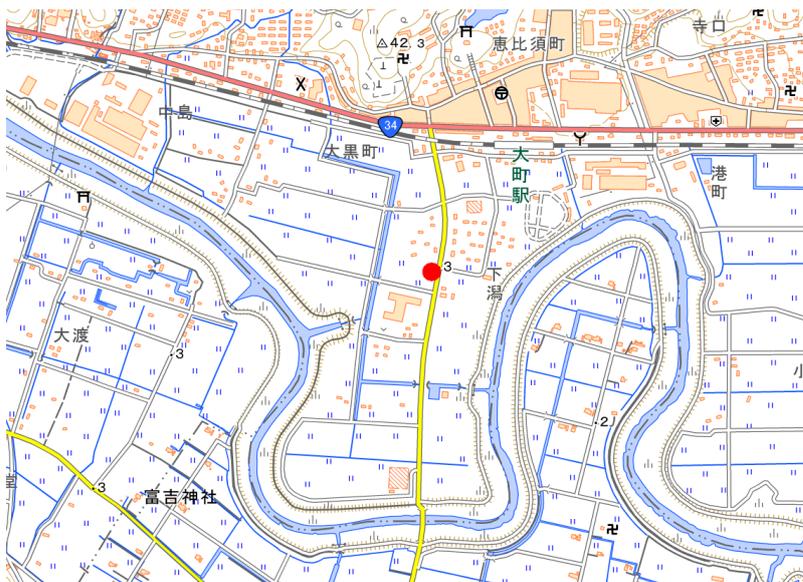


奥に見える建物が孤立した病院

町町では、14日、24時間に374.5ミリの大雨となり、佐賀県の発表では、住宅等の半壊200棟、床上浸水27棟、床下浸水92棟、計319棟の被害が発生し、再び病院が孤立した。

気候変動の影響で、今後、災害の

激化が増加する恐れがあることから、流域全体で行う総合的、多層的な治水対策、いわゆる「流域治水」が進められるようになり、六角川水系においても、その取り組みが始められている。大町町では、ため池等既存施設の有効活用やたんぼダムの整備、排水機場や排水ポンプ車等の整備などを通じた氾濫を出来るだけ防ぐ、減らすための対策、不動産関係団体へ



国土地理院電子国土 Web

の水害リスク情報の提供を通じた被害対象の減少対策、堤防空間を活用した防災機能向上対策、「逃げ遅れゼロ」へ向けた情報発信システム等の整備などを通じた被害の軽減・早期復旧・復興のための対策などに取り組まれているところである。